

特定非営利活動法人 東海自然学園
2024 年度 総会議案書

日時：2024 年 6 月 19 日（水）13 時 00 分
会場：北生涯学習センター 視聴覚室

議事次第

- 1、 開会
- 2、 代表理事挨拶
- 3、 議長選任
- 4、 審議事項
 - 第 1 号議案 2023 年度事業報告の件
 - 第 2 号議案 2023 年度収支決算報告の件
 - 第 3 号議案 2024 年度事業計画の件
 - 第 4 号議案 2024 年度収支予算計画の件
 - 第 5 号事案 2024 年度役員選任の件
- 5、 質疑及び討論・採決
- 6、 閉会

<第1号議案>

2023 年度事業報告

(2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日)

【2023 年度方針】

今年度になり、3 年間におよぶ新型コロナウイルスのまん延も一区切りつき、ようやく世の中もコロナ後を目指し始めた。当学園も新型コロナウイルスへの対応等決して油断することなく、徐々に安全に着実に従来の活動に戻す 1 年としたい。これまで自然が紡いでくれた「東海自然学園を支えてくれる人の輪」が、更なる発展をするよう諸体制を整備し、会員一同協力し活動する。

【2023 年度取り組み】

新型コロナウイルスの影響により活動の縮小や変更などの影響が残っていたが、いよいよ本年度より講座・行事・クラブなど全ての活動が本来の体制に戻り、完全復活を遂げることができた。より安全により魅力ある活動が継続できるよう、下記の制度を改めた。

●スタッフOB対象の『スタッフサポーター制度』を開設

当年度はスタッフが 22 名と少なかったため、スタッフ経験のある OB を対象に『スタッフサポーター』を募り、6 名の方が手を挙げて下さった。講座や行事、事務局業務をサポート頂き、安全管理やスムーズな運営に大きな力を発揮頂いた。

●年会費、受講料の見直し

昨今の物価高騰があり、年会費・受講料の価格改定を検討。学園が今後も充実した内容で運営を継続できるよう下記の改定を決定した。

★年会費→ 利用会員、正会員ともに 1,000 円 up

★受講料→ 基礎科・高等科受講料は 5,000 円 up で 89,000 円から 94,000 円へ。

① 自然活動リーダーの養成講座事業

東海シニア自然大学 講座部

■基礎科

◇入学者 ◎花組 (36名) ◎星組 (36名)

◇実施日

・花組 第1・第3金曜日

・星組 第2・第4金曜日

◇担当

・花組 スタッフ4名、アシスタント4名

・星組 スタッフ5名、アシスタント5名

◇修了者・皆勤者数

・花組 33名 ◎1年間皆勤3名

・星組 35名 ◎1年間皆勤11名

◇資格取得者 (自然観察アドバイザー)

・花組 (2名) ・星組 (6名)

◇高等科への進学者数

・37名

◇内容報告

・講座中の転倒により、2名が骨折(足首、手首)のケガを負われた。東谷山を下山途中に足を滑らせ転倒し足を捻ったのケガ、長ノ山湿原にて落ちていた枯れ枝が足に引っ掛かり転倒した際に手をついた際のケガ。それぞれの原因究明や今後の対応策を話し合った。

- ・ 休学・退学者があったが、それぞれ個々の事情（健康上の理由など）によるものだった。
- ・ 「昆虫入門」「植物スケッチ」は新しい先生となったが、問題なく充実した講座となった。
- ・ 「おんたけ休暇村」での合宿は1日目の夜から豪雨となり、2日目は野外実習をできる状況になかったため、全プログラムを中止した。（早めの判断で全員が無事に帰宅できた）

◇委員会活動

【企画委員会】

- ・ **花組** 〈日帰り企画〉9/22（金）葦毛湿原自然観察会・座談山登山（23名参加）
〈修学旅行〉トヨタ白川郷自然学校にてスノーシュー体験、白川郷見学（25名参加）
- ・ **星組** 〈日帰り企画〉8/4（金）伊吹山にて植物の観察、醒ヶ井バイカモ観察（29名参加）
〈修学旅行〉琵琶湖周遊（博物館、水鳥観察）、近江八幡水郷巡り（34名参加）

【観察記録委員会】

- ・ 両クラスともに個人の観察記録を立派な冊子に仕上げ、報告会にて発表した。

【学園祭委員会】

両クラスともに委員会を中心にクラス全体で取り組み、ステージ発表、展示、ワークショップに挑戦した。ステージ発表は歌や踊り、クイズや寸劇といった様々な表現で会場を盛り上げ、客席も一緒に楽しむことができ高評価を得た。また、ワークショップでは様々な工夫が施された工作が展開され、多くの参加で賑わった。展示を含めそれぞれの完成度が高く、両クラスともに学園祭を成功に導く素晴らしい内容だった。

●実施日 11月1日（水）・2日（木）

●会場：愛・地球博記念公園内 地球市民交流センター

花組

- ◎ 〈ステージ〉『自然の恵みをみんなで楽しむ』～ビンゴ、歌、写真、旅路紹介～
- ◎ 〈展示〉『自然の恵みをみんなで楽しむ』
- ◎ 〈ワークショップ〉『自然の素材で、しおりやポチ袋づくり』

星組

- ◎ 〈ステージ〉『自然と遊ぶ』～太極拳の演武、クイズ、寸劇「どじょう学園」～
- ◎ 〈展示〉『自然の豊かさと共に生きる』
- ◎ 〈ワークショップ〉『折り紙で動く青虫・シュロの葉バッタづくり』

■高等科

◇実施日 火曜日（原則）

◇担当 スタッフ（4名）

◇修了者数

- ・ 36名 ◎2年間皆勤者（5名） ◎1年間皆勤者（9名）

◇資格取得（自然観察上級アドバイザー）

- ・ 8名

◇実施内容

- ・ 講座中の大きな怪我や事故などなく、安全に1年間の講座を実施することが出来た。
- ・ 出席率もよく、皆が良い雰囲気の中で仲間との交流を楽しみながら学ぶことができた。

◇委員会活動

【企画委員会】

- ・ （日帰り企画）9/5（火）美濃市～関市を巡り「うだつの町並み」「美濃和紙クラフト体験」「株杉の見学」「モネの池散策」などを楽しんだ。（29名参加）
- ・ （修学旅行）福井県を訪れ「恐竜博物館」「丸岡城」「そば打ち体験」など（35名参加）

【観察記録委員会】

- ・ 委員会が中心となり全員の観察記録を冊子にまとめ完成させた。

【学園祭委員会】

第11回学園祭のテーマ「自然に親しみ、自然に学ぼう」を決定し、委員会メンバーを中心に盛り上げた。

- ・〈ステージ〉『ようこそ 不思議な自然の世界へ』
～椅子ストレッチ、クイズ、手品、コーラス～
- ・〈展示〉『発見！自然の魅力』
- ・〈ワークショップ〉『新聞ちぎり絵・フォトフレーム・リース作り』

■カリキュラム選択科

下記の科目に選択科参加があった。

- ・「身近な野草」義朝の森 1名
- ・「地質巡り①」名古屋城 2名
- ・「植物を知る②」茶屋ヶ坂公園 1名
- ・「昆虫と植物の関係」海上の森 2名
- ・「水辺の生きもの①」中生涯学習センター 1名
- ・「昆虫と菌類の共生」稲武 1名
- ・「中部の自然を知る①」鳳来寺山 2名
- ・「中部の自然を知る②」森林公園 1名
- ・「インタープリテーション①」東山動物園 1名
- ・「地質巡り②」知多半島 3名
- ・「中部の自然を知る③」阿智村 1名
- ・「どんぐりをとことん極める」豊田市自然観察の森 1名
- ・「森林保全を学ぶ①」北高山緑地 1名

■専修科

- ◇ 担当 2名（講座により+1名応援）
- ◇ 定員 最大20名（講座により20～17名） 催行最少人数12名
- ◇ 実施日 年間9講座 11日間
- ◇ 実施内容
 - ・計画通り年間9講座、11日間講座開催した
 - ・延べ受講者数190名日 欠席率8%
 - ・いずれの講座も受講者の評価は大変良かった。
 - ・募集定員割れの講座が2講座あった。

広報

下記の内容で広報し、第20期生も定員（72名）を超える申し込みを得ることができた。

- ◇ 担当 スタッフ＝4名、サポート隊＝8名
- ◇ 実施内容

『第20期生募集』

募集パンフレットの発行数は15,000部とした。

- ・第1回目発送：6月18日 262ヶ所 4,192部
- ・第2回目発送：10月20日 618ヶ所 8,115部

『体験入学』

- ・内容 ●代表あいさつ ●学園の概要説明 ●ミニ講座
- ・会場 愛知県森林公園（座学：案内所内多目的室）
- ・講師 久村三重子（2期生）
- ・第1回 6月29日 参加人数（15名） スタッフ6名
- ・第2回 11月14日 参加人数（24名） スタッフ5名
- ・第3回 1月10日 参加人数（34名） スタッフ6名

『その他の広報活動』

- イオン・黄色いレシート活動
 - ・8月から参加したが、店頭活動時間が30分に短縮となり活動場所も制限された。
 - ・今年度の成果はイオン（18,800円）とマックスバリュ（5,400円）合計24,200円。

文房具を購入した。

●環境デーなごや

- ・9月16日(土)に久屋大通公園で開催されスタッフ6名サポート隊2名が、一部時間差で参加した。

●メディア等への投稿

- ・天白公園自然観察会、体験入学、学園祭などを中日新聞・朝日新聞・日本自然保護協会に掲載投稿した。

② 普及啓発事業

環境教育部

■環境教育科

◇担当 2名

◇人数 53名

◇方針 社会貢献することを目的とし、様々なインタープリテーション技術の取得、向上を目指す。また、利益を追及する事業のみではなく、利益につながらなくとも自身の向上や社会貢献価値のある事業を実施する。

◇目的 自然の仕組みや魅力、楽しさや大切さを伝える。

◇実施内容

- ・定例活動(第2・第4水曜日)と、各種イベントなどでのワークショップ。
- ・担当スタッフが2名と過去最少人数での運営となったが、荷物の運搬や片付けなどメンバーにサポート頂きながら、トラブルや事故などなく1年間運営することができた。
- ・メンバーが増えたため、事務所(道場)ではなく北生涯学習センターを使用して活動した。

◇今年度の目標と達成度

- ・ 目標① 本来の活動である『人に伝えるアウトプット活動』を、積極的に取り組む。
 - コロナで出展を控えていたイベントなども完全に復活し、春・秋の戸田川イベント、夏の大曾根イベント、障害者支援施設へのクラフト提供、なごや環境大学などで、多くの人に自然工作を楽しんでもらうことができた。
- ・ 目標② より良い作品を仕上げられるよう、技術の向上を図り、丁寧な仕上げに努める。
 - 環境教育科で長く活動している先輩が、工具の使い方や、仕上げの大切さを伝え、丁寧な仕上げを心掛けた。しかし本年は立て続けにイベントがあり、慌てて仕上げたことで不十分な点も見つかった。余裕ある計画を立てる必要がある。
- ・ 目標③ 定例活動の中で研修会や観察会などを実施し、自分達のスキルアップを目指す!
 - 本来のイベント全てが復活し、それらをこなすことで手一杯となり、自分たちの研修や観察会などを行うことはできなかった。そんな中でも、道具の使い方や竹・木材の扱い方などは、先輩から後輩へ技術や知識が受け継がれ向上している。

◇年間活動実績

参加した受託事業や行事

- 戸田川緑地「とだがわまつり」【5/4木～5/5金】 ★参加者(136名+100個)
 - 大曾根七夕祭り【7/29土～7/30日】 ★参加者(160名+87個)
 - 戸田川「秋まつり」【10/7土～10/8日】 ★参加者(112名+70個)
 - 学園祭作品展示(木の実標本や作品、木の実ガチャポン)とワークショップ出展「竹筒寄せ植え」 ★参加者(70名+54個)
 - 障害者支援施設へ「でんでん太鼓」材料キット提供【1月】(61名分)
 - なごや環境大学「共育講座」～竹の竹を知り「六つ目編波縁かご」を作ってみよう!～全4回講座の企画・指導【11/14・11/21・11/29・12/6】参加者合計(のべ79名)
- ※メンバーの提案・承認にて、参加費収入の一部(30,600円)を能登半島地震の義援金へ。

③ 調査研究事業

研究部

■自然観察科

レギュラーコース4年卒業制を導入し、「レギュラーコース（在籍4年以下）」と「キャリアコース（在籍5年以上）」に分割してそれぞれに運営。

レギュラーコース

◇実施日 第2・4月曜日

◇担当 4名

◇人数 25名

◇目標 お互いに学びあい知識を深める。

◇活動内容

●活動日数

- ・科員減少に伴い3班体制、各班担当の座学2回、フィールド3回で計画。雨天で1回中止。
- ・班減少分はキャリアとの合同観察会、互いに教えあう観察会、まとめ、振り返り等。3月末キャリアに参加する希望者のみの企画を立てたが雨天中止。
- ・10月の天白公園観察会、2月の基礎科受託講座に4年生が参加。受託講座の分は+@

●フィールド

- ・4月 藤巻 ・5月 鶴舞公園、多度山 ・6月 竹島 ・7月 伊吹山 ・9月 五色園
- ・10月 森林公園、金華山 ・2月 勅使池、藤原(聖宝寺周辺) ・3月 根尾谷

◇総括

- ・観察会の場所はすべて公共交通機関利用可能な場所
- ・観察会は担当班が案内し説明する観察会、現地でそれぞれに観察する観察会、案内人を依頼した観察会とあったが一長一短
- ・座学では観察が難しい分野の発表もあり自然全般に対する興味を得られた
- ・8月にキャリアと合同の観察会と懇親会を実施し刺激になり又好評であった
- ・4年生は10月の天白観察会、2月の基礎科受託講座にキャリアに加わって活動外部へ向けて自分たちの活動の成果を感じられる機会だった
- ・出席率は89%。

キャリアコース

◇実施日 第2・第4月曜日

◇担当 2名

◇人数 11名 (10期:3名 11期:5名 12期:3名)

◇内容

- ・今年は21回の活動を行った、リーダー養成の目的で天白公園観察会を5月、7月、10月と下見3回・本番3回実施、基礎科受託講座(フィールド)を1月下見2回・2月本番2回を行う。
- ・4月 石巻山 ・5月 リョウブの森 ・6月 伊吹山 ・7月 平湯温泉・上高地
- ・9月 明智の森 ・10月 面の木 ・11月 段戸裏谷、王滝溪谷
- ・12月 長良川ふれあいの森 3月 根尾谷水鳥
- ・8月は熱田の森でレギュラーコースとの合同観察会と懇親会を4年ぶりに行う

◇総括

- ・今年度は3回の活動が雨で中止となった、特に3月のやまじの森はキャリアコースとして最終の観察会だったので残念だった
- ・10月の天白公園観察会、1・2月の基礎科受託講座はレギュラーコースと合同で活動し24年度の新体制がイメージ出来た
- ・活動場所は遠隔地が多く、車の乗り合わせで現地集合とした。
- ・全体の出席率は80%

④政策についての企画提案事業

事業部

■新規事業科

◇担当 4名

◇実施内容

- 1) 「あいち森と緑づくり環境活動・学習推進事業交付金」(2022年度に続き3回目)
 - ・ 交付金額 688 千円 (ガイドイヤホン、双眼鏡、ノコギリベルトなど)
 - ・ 2/2 県主催の活動発表会・交流会に参加し、ポスターを用いて活動を発表。
- 2) 10月「津島市民病院まつり」に参加
 - ・ パネル展示、クラフト作品の展示などで学園の活動をPRした。
- 3) 12月2日「環境フォーラム『緑の保全と気候変動』」に吉村理事が出演
 - ・ 森林公園における整備活動“を名古屋産業大学文化センター大ホールにて発表。
- 4) あいち森と緑づくり環境活動・学習推進事業の環境活動ステップアップ研修に参加
 - ・ 科員4名が11月21日、12月8日、12月17日 各テーマに出席した。

交流部

◇担当 3名

◇実施内容

●クラブについて

- ・ 新型コロナウイルス感染症も5月に5類へ移行され、クラブの活動も順次通常活動に戻っていった。
- ・ 7/6(木)クラブ長会議開催
- ・ 学園祭の展示：全11クラブと2地域サークルが参加
- ・ クラブの活動休止・廃止：2024年3月31日付け
(休止) プチトレッキングクラブ (廃止) 自然体験クラブ

●OBの活動について

- ・ コロナウイルスまん延のため、OB旅行は企画しなかった。

●「あらくさについて」

- ・ No. 71~74号と計画どおり4回発行した。

◇各クラブの活動報告

「野鳥クラブ」

●クラブ長 加藤浩生(15期) 登録人員29名 会費1,000円/年

●活動方針と目標

野鳥観察を通して、自然に親しみ、会員相互の親睦を図り、楽しい時を過ごす。

- ・ 探鳥会を4回開催する。
- ・ 野鳥観察への興味を深めるため、座学を1回開催する。
- ・ 秋の学園祭にクラブとして参加する。
- ・ クラブ員同士の親睦を深める。

●活動内容

■第1回行事：探鳥会

◇5/24(水)9:30~12:00 実施場所：海上の森

◇案内人：日本野鳥の会 愛知県支部副支部長 村上 修様 ◇8名参加

◇特記：ハチクマ、フクロウ、オオルリを観察。キビタキ、サンコウチョウ囀り聞く。

■第2回行事：座学 テーマ「シギチドリ」

◇8/22(火)10:00~12:10 実施場所：名古屋市北生涯学習センター 視聴覚室

◇講師：日本野鳥の会 愛知県支部副支部長 村上 修様 ◇12名参加

◇特記：珍しいシギ、チドリの紹介や蟹江インターのサギのコロニーの紹介等。

■第3回行事：学園祭 タイトル「野鳥の採餌」

◇11/1(水)～2日(木) 実施場所：愛・地球博記念公園「地球市民交流センター」

◇展示内容：今年度活動計画と中間報告、クラブ員が撮影した写真(2L版)20枚
野鳥の採餌風景の写真(KG判)47枚と野鳥の採餌関係の解説パネル6枚
沖縄の野鳥のイラスト、タッチペン、野鳥クラブ先輩の野鳥アルバム等

■第4回行事：探鳥会

◇12/7(木)10:00～12:00 実施場所：庄内緑地公園

◇案内人：日本野鳥の会 愛知県支部副支部長 村上 修様 ◇16名参加

◇特記：池の水鳥やシジュウカラ、ツグミのピラカンサの実の採餌風景等を観察。

■第5回行事：探鳥会

◇1/29(月)10:00～12:00 実施場所：勅使池

◇案内人：日本野鳥の会 愛知県支部副支部長 村上 修様 ◇19名参加

◇特記：大変珍しいメジロガモ、世界的に生息数が少ないアカハジロを観察できた。

■第6回行事：探鳥会

◇3/13(水)10:00～12:00 実施場所：小幡緑地

◇案内人：日本野鳥の会 愛知県支部副支部長 村上 修様 ◇18名参加

◇特記：探鳥会后、総会を兼ねた食事会を開催した。

「写真クラブ」

●クラブ長 嶋田 茂雄(9期) 登録人員 39名 会費 1,000円

●活動方針

- ・自然の景観・生物、これを取り巻く生活環境等を撮影し作品作りを楽しむ。
- ・活動への参加を通じて会員相互の交流と親睦をはかる。

●活動内容

- ・ 4/14(金)(午前)総会・写真研究会(東山植物園)(午後)植物園エリアで撮影会
- ・ 5/16(火)岐阜ワールド・ローズガーデン撮影会
- ・ 6/7(水)(午前)互選会と写真研究会(午後)写真教室
- ・ 7/11(火)入笠山・高山植物撮影会
- ・ 8/2(水)(午前)互選会と写真研究会(午後)写真教室
- ・ 9/26(火)(午前)京都植物園撮影会
- ・ 10/11(水)(午前)互選会(午後)写真教室
- ・ 11/1～2 学園祭にて作品の展示
- ・ 12/5(火)名古屋港水族館撮影会
- ・ 1/31(水)(午前)互選会(午後)写真教室
- ・ 2/22(水)名古屋農業センター・しだれ梅撮影会

「自然体験クラブ」

●クラブ長 小笠原 孝三(14期) 登録人員 72名 会費 1,000円

●活動目的

- ・自然の中で遊び・学び、自然への理解を深め、或いは歴史・文化に触れることを通じて、豊かな人間性、心のかよった人と人のつながりを創り、人と自然が共存する文化・社会の意識を高めることを図る。

●活動方針

- ・様々な自然の中で遊び、自然を分かち合う、
- ・野菜・山菜・木の実・魚介類等の自然の恵みに感謝する、
- ・歴史・文化・自然に関する史跡・遺産等の訪問、
- ・その他目的を達成するための活動、

●活動内容

- ・5/21(日)「中川運河クルーズ・ワイルドフラワーガーデンブルーボネット散策」

(34名参加)

- 9/21(木)「西村自然農園で野菜摘みと協同料理を楽しむ」(34名参加)
 - 11/16(木)「名古屋のモノづくりを体験しよう！」(27名参加)
 - 3/7(木)「幸田本光寺椿園と碧南海浜水族館見学」(37名参加)
- ※令和6年3月31日付けで廃部を決定。

「地質クラブ」

●クラブ長 園田 信五(11期) 登録人員119名 会費1,000円

●総括

クラブ員が119名の大所帯となった。今年度も森 勇一先生に講師をお願いし4か所6回の巡検と、講演会を1回開催した。天候に翻弄された事もあったが事故も無く無事終了した。同一場所を二日に分け、貸し切りバスで移動した。又、久しぶりの宿泊巡検も実施し、講演会も開催することが出来た。

●活動内容

◇第1回 日本最大のコンクリーションと風力発電基地を見る 森 勇一顧問

●2023年5月24日(晴れ)33名 ●2023年5月26日(曇り一時小雨)33名

瀬戸内中新統時に形成された一志層群柳谷の貝石山、波瀬川と日本最大級の設置密度を誇る青山高原に行き、貝化石や河床にある巨大なコンクリーションを観察した。

◇第2回 全島ジオパーク 潮騒の神島 森 勇一顧問

●2023年6月6日(曇り後小雨)30名

神島は中央部を断層が走り、三波川変成帯の結晶片岩類や玄武岩の上に堆積した石灰岩など多彩な地質が観察された。

◇第3回 長良川流域の旅 森 勇一顧問

●2023年10月10日(晴れ)38名 ●2023年10月12日(晴れ)39名

美並村刈安から長良川沿いを見学して遡上。メランジェや還流丘陵が見られた

◇第4回 世界最大規模のカルデラ噴火と熊野ジオサイト 森 勇一顧問

●2024年3月28～29日(曇り後小雨、晴れ)30名

久しぶりの宿泊を伴う巡検であった。南紀地域を構成する四万十帯、熊野層群、これらを通る熊野酸性岩の主地層が織りなすジオサイトを巡検した。

◇講演会 地質クラブの皆さんのための～最新地球科学入門～ 森 勇一顧問

●2024年3月7日 参加者64名 名古屋市都市センター会議室

地殻変動理論の地向斜からプレートテクトニクスへの動き、日本列島形成過程巨大カルデラ噴火について等、ご講演頂いた。

「植物クラブ」

●クラブ長 杉田 春一(17期) 登録人員89名 会費1,000円

●活動方針・目標

- ・植物の魅力と感動を共有
- ・東海シニア自然大学で学んだ植物好きな仲間が集まって、相互の親睦を図り、「中部・東海の植物の魅力と感動」を共有し、植物クラブの枠を超え多くの人に伝播して自然保護や保全に関心を持つ仲間の輪を広げていくことを目指す

●活動内容

- ・第1回 4/21(金) 海上の森観察会 (53名参加)
- ・第2回 5/10(水) 城山観察会 (42名参加)
- ・第3回 5/31(水) 入笠山観察会 (55名参加)
- ・第4回 6/13(火) みずの森観察会 (38名参加)
- ・第5回 7/31(水) 醒ヶ井観察会 (35名参加)
- ・第6回 9/19(火) 明智の森観察会 (50名参加)
- ・第7回 10/25(水) 森林公園観察会 (35名参加)
- ・第8回 3/13(水) 東山植物園観察会 (63名参加)

「植物アートクラブ」

- クラブ長 松山治和（14期） 登録人員21名 会費2,000円
- 活動日 原則 毎月第4木曜日 午後
- 会場 メイン：福社会館 サブ：北生涯学習センター
- 講師 高島 裕美子さん（9期生）
- 活動内容 植物画を描くことにより、植物の観察力を高め、その理解を深める
また会員間の親睦を深める

日時	時間	場所	出席者数	活動内容
4/27（木）	13：00～16：00	福社会館 7F 研修室	17名	計画・紹介/画材と用具
5/25（木）	10：00～14：00	ブルーボネット/昼食会	11名	野外スケッチ会
6/22（木）	13：00～16：30	福社会館 7F 研修室	10名	立体図、折り紙
7/27（木）	13：00～16：00	北生涯学習センター	12名	線を引く、陰をつける
8/24（木）	9：00～12：00	福社会館 7F 中会議室	16名	トウガラシを描く
9/28（木）	9：00～12：00	福社会館 7F 小会議室	14名	ツバキ等の枝葉を描く
10/26（木）	13：00～16：00	福社会館 7F 小会議室	14名	鉛筆、消しゴムと紙の質
11/16（木）	13：00～16：00	北生涯学習センター 第6集会室	14名	落ち葉を描く
12/21（木）	13：00～16：00	福社会館 7F 研修室	17名	山茶花、椿の花を描く
1/25（木）	9：00～14：30	福社会館 7F 中会議室/浜木綿	17名	野菜、生り物/新年会
2/22（木）	9：00～12：00	福社会館 7F 中会議室	15名	ツタを描く
3/28（木）	13：00～16：00	福社会館 7F 小会議室	12名	総会/作品発表会

〈その他の活動〉

- ・〈学園祭〉11月1日（水）～11月2日（木） 作品の展示 （15名出展）
- ・〈懇親会〉10/4（水）10：00～14：00 新美南吉の里・矢勝川の彼岸花・ランチ（8名参加）
- ・〈新年会〉1/25（木）12：30～14：30 浜木綿黒川店/自己紹介、くじ引き景品（16名参加）

「自然句詠クラブ」

- クラブ長 伊藤繁子（8期） 登録人員17名 会費1,000円
- 活動方針と目的
 - ・ 自然を愛（め）で、その感動を575俳句に表現し楽しむ。
 - ・ クラブ員が少ないため全員が何らかの役割を担いクラブの運営に主体的に参画する。
 - ・ クラブ員の交流として、新入員歓迎会と忘年会を行う。
- 活動目標
 - ・ 月一回自作の3句を持ち寄り句会をする。
 - ・ 年一回は、吟行（現地に赴き作句し句会を行う）を行う。
 - ・ 一年のまとめとして句集を作成する。
- 活動内容

イーブル名古屋を会場として月1回句会を開催した。

 - ・ 第89回 4月28日 12名
 - ・ 第90回 5月29日 14名
 - ・ 第91回 6月30日 12名
 - ・ 第92回 7月31日 13名
 - ・ 第93回 8月30日 13名
 - ・ 第94回 9月29日 12名
 - ・ 第95回 10月27日 13名
 - ・ 第96回 11月17日 9名
 - ・ 第97回 12月25日 12名
 - ・ 第98回 1月29日 12名
 - ・ 第99回 2月28日 12名
 - ・ 第100回 3月25日 16名

※第100回を記念して4月には1泊2日の親睦旅を企画している。

「湿地クラブ」

●クラブ長 小沢 球一（10期） 登録人員 17名 会費 1,000円

●活動方針・目標

- ・湿地観察のベテランを育成するとともに湿地に関するデータを作成、収集、保存し併せて湿地保護のボランティア活動を行う。

●活動内容

【湿地観察会】

- ・築水の森 4/1（9名参加） ・各務野自然遺産の森 5/6（11名参加）
- ・葦毛湿原・黒河湿地 6/16（9名参加） ・金生水沼沢植物群落 7/21（7名参加）
- ・浮島ヶ原自然公園 8/6（5名参加） ・箱根湿性花園 8/7（5名参加）
- ・天生湿原 9/16（6名参加） ・根の上高原 10/14（6名参加）
- ・藤前干潟 12/26（8名参加）

【湿地保全ボランティア活動】

- ・大狭間湿地 1/27（7名参加） 2/10（8名参加） 2/24（7名参加）

「ハイキングクラブ」

●クラブ長 栗田 博之（13期生） 登録人員 99名 会費 1,000円

●活動方針

- ・自然観察及び散策、町の歴史探訪を通して自然や歴史にふれあい知識を高める。
- ・体力の維持及び増進。
- ・活動への参加を通じて会員相互の交流と親睦をはかる。

●活動内容

- ・第18回 5/20（土） 大垣城とミニ奥の細道ハイキング（55名参加）
- ・第19回 10/7（土） 御油の松並木豊川稲荷ハイキング（41名参加）
- ・第20回 12/2（土） 紅葉の養老公園ハイキング（52名参加）
- ・第21回 3/2（土） 高田本山専修寺（55名参加）

「プチ・トレッキングクラブ」

●クラブ長 鈴木 行薫（15期） 登録人員 100名 会費 1,000円

●活動目標

- ・軽易なトレッキングを通して、自然に親しみ会員相互の研鑽と親睦を図る。

●活動内容

- ・4月28日 滋賀県 山門水源の森 参加者（50名） 貸切バス利用
ガイドの案内により、自然豊かな森を散策した。
- ・8月31日 長野県 入笠山 参加者（44名） 貸切バス利用
高山植物と八ヶ岳の眺望を楽しんだ。
- ・11月30日 滋賀県 琵琶湖 沖島 参加者（51名） 貸切バス&チャーター船利用
琵琶湖に浮かぶ島 沖島を散策した。
- ・2月21日 三重県 熊野古道 松本峠 参加者（46名） 貸切バス利用
熊野古道伊勢路の最南端の松本峠と鬼ヶ城を散策した。

※2023年3月をもって活動休止を決定。

「蝶と花の観察クラブ」

●クラブ長 大脇 雅久（8期生） 登録人員 50名 会費 1,000円

●活動目的

- ・東海地方の減少傾向にあるチョウ類と植物の調査。
- ・観察会などで蝶と植物の解説ができるリーダーの育成。

●活動内容

- ◎小幡緑地のチョウ類調査 植物調査(モニタリング1000をお手本)を中心に活動
- ・4月5日・6日 小幡緑地A・B

- ・4月12日・13日 釜戸（竜吟の森）A・B
- ・4月19日・20日 小幡緑地 A・B
- ・5月10日・11日 小幡緑地 A・B
- ・5月24日・25日 小幡緑地 A・B
- ・5月31日・6月1日 小幡緑地 A・B
- ・6月7日・8日 小幡緑地 A・B
- ・9月18日 小幡緑地
- ・11月30日 六所山観察会
- ・3月6日 総会
- ・3月29日 昭和の森観察会 （18名参加）

⑤自然環境保全事業

自然保護部

■森林公園整備科

- ◇活動日 毎月第2・第4木曜日
- ◇科員数 26名
- ◇年間活動実績 定例整備活動＝16回 延べ 279名（1回平均 17名）
 高等科講座 1回 14名
 中止＝ 8回 （6月後半から7・8月連続5回中止＝雨天・暑さ）

◇活動状況

- ・2023年度の活動は協定区域の最南のA地区で実施した。
 （協定区域：8.2haを南からA,B,Cの3区域に区分している）
- ・5月に植生調査を実施。6種を保護種として除伐作業を行った。
 - ・県有林野の森づくり活動安全講習会に2名参加。11月17日（愛知県民の森）
 - ・第21回環境フォーラム（尾張旭市と名古屋産業大学共催）に3名参加。
 森林公園における森林整備活動の講演を行った。
 - ・2月に植物園内で探鳥会を実施した。参加者＝18名、野鳥25種類観察。

■瀬戸里山整備科

年間計画に沿って活動、竹の年度別生育調査は中止、雑木林調査に切り替えた、胸高径5cm以上の樹木を同定し名札付実施、樹種は25種、274本で全体の6割完了した。

竹林は急斜面の作業が多いため、安全作業を最優先とした
 10月の体験整備に4名の参加があり、うち2名が入会した。

- ◇担当 2名
- ◇登録者 20名
- ◇活動場所 瀬戸市曾野町
- ◇実施日 第3土曜日、但し雨天の場合は、予備日第4土曜日
- ◇年間活動日 12日（雨で予備日活動2日） 述べ参加人数・・・166名
- ◇活動内容

- ① 安全作業を徹底するため声掛け、枯葉の除去を行い事故が起きない作業を行った。
- ② 恒例の行事としてタケノコ堀り・懇親会・門松作りを実施、科員の連帯と協調を図る。
- ③ 学園祭は学園祭担当と、出品した科員の協力で好評でした。

⑥その他目的を達成するために必要な事業

該当事業なし

<第2号議案> 2023年度収支決算報告

2023年度(第17期)活動計算書

令和5年4月1日から令和6年3月31日まで

特定非営利活動法人東海自然学園

科 目	金額(単位:円)		備考
I 経常収益			
1 受取会費			
正会員受取会費	115,000		年会費(23名*5千円) 年会費(489名*3千円) 年会費(1社)
利用会員受取会費	1,467,000		
賛助会員受取会費	100,000	1,682,000	
2 受取寄付金			
受取寄付金	492,431	492,431	あいおいニッセイ同和損保、個人
3 受取助成金			
受取助成金	688,329	688,329	あいち森と緑の交付金
4 事業収益			
自然活動リーダー養成講座事業収益	10,514,300		
普及啓発事業収益	303,350		
調査研究事業収益	0		
政策についての企画提案事業収益	0		
自然環境保全事業収益	0		
その他目的達成するための事業収益	0	10,817,650	
5 その他収益			
受取利息	159	159	
経常収益計			13,680,569
II 経常費用			
1 事業費			
(1) 人件費			
給料手当	3,766,600		
通勤手当	229,040		
法定福利費	592,090		
福利福利費	10,000		
人件費計	4,597,730		
(2) その他経費			
講師謝礼金	1,689,500		
教材費	116,434		
会場費	652,110		
広報費	495,000		
リーフレット代	352,000		
講師交通費	123,190		
スタッフ交通費	1,498,050		
消耗品費	684,325		
家賃	960,000		ガイドイヤホン、双眼鏡 他 事務所家賃
水道光熱費	101,372		
コピー機維持費	193,538		
保険料	305,394		NPO活動総合保険
通信運搬費	789,881		郵送費、通信費
支払寄付金	30,803		能登災害義援金
雑費	7,275		
その他経費計	7,998,872		
事業費計		12,596,602	
2 管理費			
(1) 人件費			
給料手当	179,200		会計担当者給与
福利厚生費	11,745		
退職給付費用	50,000		
人件費計	240,945		
(2) その他経費			
セキュリティ料	92,400		
旅費交通費	960		
消耗品費	95,981		パソコン購入等
租税公課	0		
支払手数料	100,918		会計指導料等
雑費	33,000		
その他経費計	323,259		
管理費計		564,204	
経常費用計			13,160,806
当期経常増減額			519,763
III 経常外収益			0
IV 経常外費用			0
当期正味財産増減額			519,763
前期正味財産額			7,009,773
次期繰越財産額			7,529,536

2023年度(第17期)貸借対照表

令和6年3月31日現在

特定非営利活動法人東海自然学園

科 目	金 額(単位:円)		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金	21,012,963		
未収金	688,329		
前払金	65,450		
流動資産合計		21,766,742	
資産合計			21,766,742
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金	288,530		
前受金	12,964,000		
預り金	34,676		
流動負債合計		13,287,206	
2 固定負債			
退職給付引当金	950,000		
固定負債合計		950,000	
負債合計			14,237,206
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産額		7,009,773	
当期正味財産額		519,763	
正味財産合計			7,529,536
負債及び正味財産合計			21,766,742

2023年度(第17期)財産目録

令和6年3月31日現在

特定非営利活動法人東海自然学園

科 目		金 額(単位:円)	
I 資産の部			
1 流動資産			
現金	現金手元有高	161,155	
普通預金	三菱東京UFJ銀行植田支店	14,346,952	
普通預金	ゆうちょ銀行	4,500,450	
定期預金	三菱東京UFJ銀行植田支店	2,004,406	
前払金	次年度会場費等	65,450	
未収金		688,329	
	流動資産合計		21,766,742
	資産合計		21,766,742
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金	3月分給与・リース料・家賃	288,530	
前受金	次年度分受講料、年会費	12,964,000	
預り金	源泉所得税、社会保険料	34,676	
	流動負債合計		13,287,206
2 固定負債			
	退職給付引当金	950,000	
	固定負債合計		950,000
	負債合計		14,237,206
	正味財産合計		7,529,536

2023年度(第17期)財務諸表の注記

特定非営利活動法人東海自然学園

1 重要な会計方針

財務諸表の作成は、NPO法人会計基準(2010年7月20日、2011年11月20日一部改正NPO法人会計基準協議会)による


2 事業費の内訳

科 目	自然活動リーダー養成講座	普及啓発事業	調査研究事業	政策についての企画提案事業	自然環境保全事業	その他目的達成するための事業	事業部門計
(1) 人件費							
給料手当	3,013,280	451,992	37,666	225,996	37,666	0	3,766,600
通勤手当	183,232	27,485	2,290	13,742	2,290	0	229,040
法定福利費	473,672	71,051	5,921	35,525	5,921	0	592,090
福利厚生費	8,000	1,200	100	600	100	0	10,000
人件費計	3,670,184	550,528	45,877	275,264	45,877	0	4,597,730
(2) その他の経費							
講師謝礼金	1,573,500	116,000					1,689,500
教材費	113,898	2,536					116,434
会場費	551,110	101,000					652,110
広報費	396,000	59,400	4,950	29,700	4,950		495,000
リース代	281,600	42,240	3,520	21,120	3,520		352,000
講師交通費	98,552	14,783	1,232	7,391	1,232		123,190
スタッフ交通費	1,198,440	179,766	14,981	89,883	14,981		1,498,050
消耗品費	547,460	82,119	6,843	41,060	6,843		684,325
家賃	768,000	115,200	9,600	57,600	9,600		960,000
支払寄付金	24,642	3,696	308	1,848	308		30,803
水道光熱費	81,098	12,165	1,014	6,082	1,014		101,372
コピー機維持費	154,830	23,225	1,935	11,612	1,935		193,538
保険料	244,315	36,647	3,054	18,324	3,054		305,394
通信運搬費	631,905	94,786	7,899	47,393	7,899		789,881
雑費	7,275						7,275
その他経費計	6,672,625	883,562	55,336	332,013	55,336	0	7,998,872
経常費用計	10,342,809	1,434,090	101,213	607,277	101,213	0	12,596,602
参考 (配布率)	0.8000	0.1200	0.0100	0.0600	0.0100	0	1.00

2024年6月14日

特定非営利活動法人東海自然学園

代表理事 朝田 泰 殿

監事 横井 進 

監査報告書

2023年4月1日から2024年3月31日までの、2023年度における業務執行並びに財産及び会計の状況について、特定非営利活動促進法の定めるところにより、同法第18条並びに定款第15条の定めによって監査を行いましたので、下記の通り監査結果を報告します。

記

事業報告・活動計算書・貸借対照表・財産目録及び会計諸帳簿類を精査した結果、経理処理・財産運用及び用途については、いずれも適正であり、業務については当初の目的を概ね達成できたことを認めました。

以上

<第3号議案>

2024年度事業計画

(2024年4月1日～2025年3月31日)

【2024年度方針】

今年度は「東海シニア自然大学」を開講して20周年という区切りの年となる。派手なセレモニーは行わないが、これまで学園の諸活動を支えていただいたOBの皆様方と現受講者である第19期生(高等科)・20期生(基礎科)の皆様とともに式典を実施したい。これまでの会員の皆様のご支援に感謝し、また今後東海自然学園が益々発展していくことを期して、会員全員で諸施策を遂行し、次なる30周年に向かう礎を築く年としたい。

① 自然活動リーダーの養成講座事業

東海シニア自然大学 講座部

■基礎科

- ・担当スタッフの連携を深め、連絡を密にし、充実した内容で安全に運営する。
- ・合宿を含め、講師やフィールドの変更が必要な科目は全担当スタッフで事前の下見や打ち合わせをし、スムーズに当日が迎えられよう進める。
- ・進路説明のタイミングや方法を工夫し、高等科への進学率を高める。

◇担当 11名 (+アシスタント2名)

◇人数 全72名 (2クラス)

◇実施日 年間30日間 (隔週火曜日)

◇計画内容

- ・年間カリキュラムの運営・進行・安全管理。
- ・学園祭に向けてクラスの取り組み。
- ・各委員会の活動支援。
- ・振り返りなど受講生の評価を参考に、カリキュラムの改善や見直し。
- ・記録、報告書の作成。

■高等科

- ・担当スタッフの連携を深め、連絡を密にし、充実した内容で安全に運営する
- ・合宿を含め、講師やフィールドの変更が必要な科目は全担当スタッフで事前の下見や打ち合わせをし、スムーズに当日が迎えられよう進める。

◇担当スタッフ 5名

◇受講生人数 高等科37名 選択科年間のべ17名

◇実施日 金曜日(原則)

◇計画内容

- ・年間30日間のカリキュラムを計画
- ・各委員会の活動支援
- ・学園祭に向けてクラスの取り組みを支援するとともに基礎科への支援
- ・振り返りなど受講生の評価を参考に、カリキュラムの改善・見直し
- ・記録、報告書の作成

■カリキュラム選択科

- ・高等科受講生を含め40名を最大人数とし、それ以上の希望がある場合は抽選とする。

■専修科

- ◇ 担 当 3名
- ◇ 定 員 20名（講座により最大25名～17名） 催行最少人数12名
- ◇ 実施日 年間9講座 11日間
- ◇ 計画内容
 - ・昨年度と同じカリキュラムであるが、よりスムーズな進捗をめざす。
 - ・振り返りなど受講生の評価を参考に講座内容の改善、見直しを図る。
 - ・新講師、新講座の可能性を常に模索し、マンネリにならないようにする。
 - ・今年度より3回/年に分けて参加者を募集し、定員確保に繋げる。

広報

- ◇担 当 スタッフ（5名）、サポート隊（7名）
- ◇方 針 積極的に新しい広報策を模索し実施する。
- ◇目 標 他の科・サポート隊との連携を強化し、定員72名確保を目指す。
- ◇具体的計画
 - 『ブログの内容を随時更新する』
 - 『21期生募集』
 - ・募集パンフレットの発行数は15,000部、デザインの見直しを行う。
 - ・募集パンフレットの発送 = 1回目（6月20日）2回目（10月17日）
 - ・体験入学の実施。1回目＝6月26日午前、2回目＝11月14日午前、3回目＝1月28日午後
 - 実習：愛知県森林公園（児童公園付近）、座学：多目的利用室
 - 『学園広報活動』
 - ・メディアに投稿・取材依頼等を積極的に行う。（新聞社・テレビ局・NCS-J等）
 - ・イオン、イエローシートのキャンペーン活動に参加する。
 - 店頭活動：2024年4月～2025年2月
 - ・「環境デーなごや」に参加する。

② 普及啓発事業

環境教育部

■環境教育科

- ◇担 当 3名
- ◇人 数 59名
- ◇方 針
 - 社会貢献することを目的とし、様々なインタープリテーション技術の取得、向上を目指す。
 - また、利益を追及する事業のみではなく、収入につながらなくとも自身の技術向上や社会貢献的価値のある事業を実施する。
- ◇目 的 自然の仕組みや魅力、楽しさや大切さを伝える。
- ◇今年度の目標
 - ・目標① 本来の活動である『人に伝えるアウトプット活動』を、積極的に取り組む。
⇒特に「標本や解説」など展示の充実に力を入れる。
 - ・目標② 昨年度から準備を進めている新作（旧作）を軌道に乗せる。
 - ・目標③ より良い作品を仕上げられるよう、技術の向上を図り、丁寧な仕上げに努める。
- ◇計画内容
 - 毎月2回（第2、第4水曜日）の定例活動を行う。（北生涯学習センターを利用）
 - 恒例となっているイベントは全てに参加予定→戸田川緑地イベント（春・秋）、大曾根七夕祭り、なごや環境大学（上期・下期）、障害者支援施設、学園祭。
 - 作業のみではなく、議論や提案の時間を設け、メンバーの想いを汲み入れた活動を目指す。

③ 調査研究事業

研究部

■自然観察科

自然観察と自然に関する座学テーマについて、自分自身の学習意欲を高め、(リーダーとして)社会貢献することを目的に、それぞれのコースにて学習・研究・実践を行う。
今年度から「レギュラー」「キャリア」の枠を取り払い、全6年制とする。また、6年間在籍後もプラチナコースのメンバーとして科の活動に参加可能。

◇実施日 第2・4月曜日

◇担当 8名

◇人数 29名

◇目標 お互いに学びあい知識を深める。

自然観察科の目的である自分自身の学習意欲を高め、社会貢献できるような年間計画を立て学習・実践する

◇活動内容

●下記のフィールドにて観察会の実施を計画。

藤巻町、明智の森、金華山、葦毛湿原、王滝溪谷、定光寺、明德公園、勅使池、海上の森
宿泊も計画

●座学は年1回の予定。

●「天白公園観察会」の開催。(※一般対象)

・年3回を予定 (参加者拡大を目指し、祝日に2回設定)

・今年度より天白生涯学習センター共賛となった。

●基礎科の受託講座の下見、リハーサル2回、実施2回

④政策についての企画提案事業

事業部

■新規事業科

◇担当 6名 (検討課題によりメンバーは随時編成)

◇内容

新規事業科を中心にプロジェクトチームを結成し、下記について取り組む。

●助成金申請

「あいち森と緑づくり環境活動・学習推進事業交付金」(2023年度に続き4回目)

- ・ 交付金(566,000円)を自然保護に関わる人材育成に活かし、更なる活動の発展につなげる。
- ・ 交付金を活かし里山整備活動(里山保全)の技術向上、後継者育成、希少種保護などに繋げる目的で講演会や講座を実施する。

●20周年記念プロジェクト

- ・ 新規事業科を中心にプロジェクトチームを組み、『感謝・交流・PR』を目的に、東海シニア自然大学20周年を記念した様々な企画を提案、実施する。

交流部

◇担当 3名

◇年間目標

- ・ OB会員の活性化、親睦を目的とした企画を計画し実施する。

- ・クラブ活動が安全、健全に実施されるよう、実態の把握に努め助言する。

◇実施内容

- クラブについて
 - ・クラブ長会議を開催する。
 - ・新たなクラブ設立を呼びかけ、クラブ数を増やす。
- OBの活動について
 - ・宿泊を伴うOB旅行を2カ所企画し、実施する。
- 「あらくさについて」
 - ・例年どおり4回発行する。

◇各クラブの活動計画

「野鳥クラブ」

- クラブ長 加藤浩生（15期） 登録人員（30名） 会費1,000円/年

●活動方針と目標

野鳥観察を通して、野鳥に親しみ、自然への意識を深め、かつ会員相互の親睦を図る。

- ① 探鳥会を4回開催する。
- ② 野鳥知識をより深めるため、座学を1回開催する。
- ③ 秋の学園祭にクラブとして参加する。
- ④ クラブ員間の親睦を深める。

●活動計画 注：時期と探鳥場所は変更することがあります。

第1回	探鳥会	5月	(夏鳥観察：海上の森)	5/23 実施
第2回	座学	8月	(テーマ：タカの渡り)	8/22 予定
第3回	探鳥会	9月	(干潟の野鳥観察：藤前干潟)	9/4 予定
第4回	学園祭	11月	(テーマ：野鳥クラブ探鳥会活動紹介)	
第5回	探鳥会	12月	(冬鳥観察①：湖北野鳥センター)	
第6回	探鳥会・総会	3月	(冬鳥観察②：平針)	

「写真クラブ」

- クラブ長 嶋田 茂雄（9期） 登録人員（37名） 会費1,000円

●活動方針

- ・自然の景観・生物、これを取り巻く生活環境等を撮影し作品作りを楽しむ。
- ・活動への参加を通じて会員相互の交流と親睦をはかる。

●活動計画

- ・4/9 火 午前：総会（東山動植物園植物会館）/午後：植物園エリアで撮影会
- ・5/7 火 浜名湖ガーデンパーク撮影会
- ・6/5 水 午前：互選会と写真研究会 /午後：千種公園でユリの撮影と撮影講習会
- ・7/26 金 妻籠宿撮影会
- ・8/21 水 互選会と写真研究会
- ・9/24 火 彼岸花撮影会・三岐鉄道眼鏡橋付近を予定⇒場所変更の可能性あり
- ・10/2 水 互選会と写真研究会
- ・11/28・29 学園祭写真展示・モリコロパーク
- ・12/4 水 森林公園紅葉撮影会とフォトコンテスト応募
- ・1/20 月 互選会と写真研究会
- ・2月 随時計画
- ・3/5 水 なばなの里 カワヅザクラ撮影会

「地質クラブ」

- クラブ長 園田信五（11期生） 登録人員（116名） 会費1,000円

●活動方針

- ・今年度も森 勇一先生に顧問をお願いし、巡検を行いたい。行き先、時期などは森先生と

相談し決めるが、現地集合・貸し切りバスを使用し、22年度秋に使ったオムニバス形式などを含めた方法で参加募集し多くの会員に巡検に参加できるようにしたい。

又、講演会を企画し、多くの会員が一堂に会する機会を作りたい。

- ・学園祭にも参加しクラブの活動を広報して行きたい。

●事業予算について

- ・巡検時の講師代・バス代などは、受益者負担の考えから参加者された方から、その都度集金する。なお、年度で集める会費は学園祭準備や巡検の下見など利用者が特定できない諸経費に使用する。

「植物クラブ」

●クラブ長 佐藤博（18期生） 登録人員（111名） 会費 1,000円

●活動方針・目標

- ・植物の魅力と感動を共有
- ・自然大学で学んだ植物好きな仲間が集まって観察会を行うことで、相互の親睦を図り植物の魅力と感動を共有する

●活動計画

- ・4月21日（日） 木曾福島・城山 山野草観察 公共交通
- ・5月22日（水） 竜吟の森 山野草観察 公共交通
- ・6月7日（金） みたけの森（初夏） 野草観察 公共交通
- ・6月25日（火） 海上の森 野草観察 公共交通
- ・7月5日（金） 白馬五竜高山植物園 高山植物観察 バス
- ・8月上旬 伊吹山 高山植物観察 バス
- ・11月下旬～12月上旬 みたけの森（晩秋） 樹木・野草観察 公共交通
- ・3月頃 未定

「植物アートクラブ」

●クラブ長 松山 治和（14期生） 登録人員（21名） 会費 2,000円

●活動内容

- ・植物の特徴をとらえ、それを描くことにより表現の楽しさを知る。
- ・月毎の課題に沿って作品を仕上げる。
- ・全員の作品を鑑賞し、講師の講評・助言を通し作品の質を高め、また親睦を図る。
- ・学園祭において作品の展示を行う。

●活動計画

- ・日程 毎月第4木曜日 主な活動場所「名古屋市総合福祉会館」

開催日	例会	題	内容
4月25日	自己紹介・年間計画	画材と用具	絵を描くために必要なもの
5月23日	野外スケッチ(写生会)		
6月27日		鉛筆の可能性	鉛筆の濃淡(グレイトーンを描く)
7月25日		鉛筆濃淡で形を描く	鉛筆で形を描く
8月22日	学園祭計画	着色材を使う	花を描く(着色材を使う)
9月26日		常緑の枝葉を描く	葉を描く(着色材を使う)
10月24日		紅葉樹を描く	紅葉の枝葉を描く
11月28日		落葉を描く	落ち葉を描く
10～11月	秋の懇親会(写生会)		
12月26日		花芽・葉芽を描く	山茶花、椿の花枝を描く
1月23日	(PM)新年会	身近なものを描く	野菜、生り物を描く
2月27日		曲線を描く	ツタを描く
3月27日	総会・作品発表会		

「自然句詠クラブ」

●クラブ長 伊藤 繁子（8期生） 登録人員（15名） 会費 1,500円

●活動方針・目標

- ・自然を愛（め）で、その感動を575（俳句）に表現し楽しむ。
- ・メンバー全員が何らかの役割を担い、クラブの運営に主体的に参画する。

●活動計画

- ・月1回（月末週）句を持ち寄り句会を実施する（お互いに評価し合う）
- ・句会実施日に終了後、希望者で反省懇親会を実施する。
- ・句会のうち年1回、吟行（現地に赴き作句し句会を実施）。
- ・1年の纏めとして句集を編集する。
- ・「写真で1句」を年1回行う。

「湿地クラブ」

●クラブ長 小沢 球一（10期生） 登録人員（18名） 会費 1,000円

●方針・目標

- ・湿地観察のベテランを育成するとともに湿地に関するデータを作成、収集、保存し併せて湿地保護のボランティア活動を行う。

●活動計画

（湿地観察会）

- ・4.4 河川環境楽園 5/20 桶ヶ沼 6/15 天生湿原
- ・7/29～7/30 鎌池湿原・母池自然園 8/5 八島ヶ原湿原
- ・9/15 板山高根湿地 10/3 明智の森 12/16 勅使池

（湿地保全ボランティア活動）

- ・1/16 1/25 2/6 2/22 八竜湿地

そのほか有志のみによる湿地の観察、河川の動物採集と観察の活動を随時行う。

「ハイキングクラブ」

●クラブ長 栗田 博之（13期生） 登録人員（124名） 会費 1,000円

●活動方針

- ・自然観察及び散策、町の歴史探訪を通して自然や歴史にふれあい知識を高める。
- ・体力の維持及び増進。
- ・活動への参加を通じて会員相互の交流と親睦をはかる。

●活動計画

- ・第22回 碧南てらまちハイキング 2024年5月2日（木）・5月9日（木）
- ・第23回 やきもののまち瀬戸ハイキング 2024年10月24日（木）・10月31日（木）
- ・第24回 朝日遺跡ハイキング 2024年12月5日（木）・12月12日（木）
- ・第25回 清須ハイキング 2025年3月13日（木）・3月20日（木）

「蝶と花の観察クラブ」

●クラブ長 大脇 雅久（8期生） 登録人員（35名） 会費 1,000円

●活動目的

- ・東海地方の減少傾向にあるチョウ類と植物の調査。
- ・観察会などで蝶と植物の解説ができるリーダーの育成。

●活動計画

- ・3/29（水） 昭和の森
- ・4/3（水） 北山湿地
- ・4/11（木）、12（金） 釜戸
- ・4/25（木） 鳥居峠
- ・5/15（水） 安曇野アルプス公園
- ・5/29（水）、30（木） 昭和の森
- ・6/12（水） 南アルプス 鳥合林道
- ・7/6（火） 上高地

⑤自然環境保全事業

自然保護部

■森林公園整備科

◇活動日 毎月第2・第4木曜日

◇科員数 23名

◇活動計画

『安全』

- ・作業開始前に「事前打合せ」「安全作業マニュアル読み合わせ」を行い安全作業の徹底を図る。
- ・ヒヤリハット集を作成し安全作業に活用する。

『整備活動』

- ・今年度は協定区域のB地区で活動する。
- ・「植生調査」を実施し、除伐作業や希少種保護に活用する。
- ・「観察会」「協定区域の巡視」を行い活動区域の状況を確認する。

『その他』

- ・科員の交流・親睦を深める。

■瀬戸里山整備科

年間計画をリーダーを中心に作成し、竹林部分、雑木林部分の作業日を意識して設定し実施する。急斜面の作業が多いため、安全作業を最優先としていく。

◇担当 4名

◇登録者 19名

◇実施日 第3土曜日、但し雨天の場合は、予備日第4土曜日

◇活動場所 瀬戸市曾野町

◇活動内容

- ① 安全作業を最優先し、事故のない作業を行う
- ② 除伐作業安全マニュアルの読み合わせ、ヒヤリハットの作業の確認徹底
- ③ 安全マニュアルの充実を図る、4月の総会で提案のあった4項目を新スタッフが年内を目途にマニュアル化する
- ④ 科員増員の広報活動を行なう・・・ケヤキに投稿・講座部の体験活動時にPR
- ⑤ 学園祭(係)委員を任命し、全体での参加を課題とする
- ⑥ 懇親会を実施し科員の交流を深める

⑥その他目標を達成するために必要な事業

該当事業計画なし

科目	金額			備考
I 経常収益				
1. 受取会費				
正会員受取会費	186,000			正会員 31名 賛助会員 1社 利用会員494名
賛助会員受取会費	100,000			
利用会員受取会費	1,976,000	2,262,000		
2. 受取寄付金				
受け取り寄付金	50,000	50,000		
3. 受取助成金収入				
受け取り助成金	566,000	566,000		
4. 事業収入				
自然活動リーダー養成講座授業収益	11,013,000			受講料
普及啓発事業収益	200,000			
調査研究事業収益	0			
政策についての企画提案事業収益	50,000			
自然活環境保全事業収益	0			
その他事業収益	0	11,263,000		
5. その他収益				
雑収入	0			
受取利息	0	0		
経常収益計			14,141,000	
II 経常費用				
1. 事業費				
(1) 人件費				
給料手当	4,005,000			
通勤手当	240,000			
法定福利費	630,000			
人件費計	4,875,000			
(2) その他経費				
謝礼金	1,785,000			
教材費	270,000			
会場費	770,000			
広報費	500,000			
リーフレット代	370,000			
講師交通費	160,000			
スタッフ交通費	1,436,000			
バス代	0			
消耗品費	930,000			
雑費	20,000			
家賃	960,000			事務所家賃
接待交際費	0			
水道光熱費	130,000			
コピー維持費	210,000			
保険料	350,000			NPO活動保険
通信運搬費	800,000			郵送料、通信費
諸会費	0			
研修費	0			
その他経費計	8,691,000			
事業費計		13,566,000		
2. 管理費				
(1) 人件費				
給料手当	180,000			会計担当給与
退職給付費用	50,000			
福利厚生費	15,000			
人件費計	245,000			
(2) その他の経費				
セキュリティ料	100,000			消費税分 会計指導料等
事務用品費	100,000			
租税公課	0			
支払手数料	100,000			
雑費	30,000			
その他経費計	330,000			
管理費計		575,000		
経常費用計			14,141,000	
当期経常増減額			0	
III 経常外収益			0	
IV 経常外費用			0	
当期正味財産増減額			0	
前期繰越正味財産額			7,529,536	
次期繰越正味財産額			7,529,536	

<第5号議案>

2024年度役員選任

2024年度の役員として下記の方を選任致します。

- ・ 代表理事 朝田 泰
- ・ 筆頭理事 中野 治男
- ・ 理事 上田 元己
- ・ 理事 吉村 至衛
- ・ 理事 福岡 潔
- ・ 理事 森下 保男
- ・ 理事 森 静枝
- ・ 理事 鈴木 好則
- ・ 理事 林 昌子
- ・ 理事 中川 員
- ・ 理事 波多野 桂一
- ・ 理事 祖父江 洋子
- ・ 理事 霜 桂子
- ・ 理事 近藤 秀光
- ・ 理事 寺澤 明子
- ・ 理事 杉田 春一
- ・ 理事 中村 由紀子
- ・ 理事 服部 幸枝
- ・ 理事 真島 富男
- ・ 監事 横井 進

その他報告事項

上記役員以外の2024年度正会員

- ◆ 友松 康二 (17期生)
- ◆ 山田 佳代子 (17期生)
- ◆ 井戸 宗直 (18期生)
- ◆ 浅野 公佐 (18期生)
- ◆ 松永 初代 (18期生)
- ◆ 佐藤 博 (18期生)
- ◆ 武藤 信一郎 (18期生)
- ◆ 久田 るり子 (18期生)
- ◆ 酒井 博司 (18期生)
- ◆ 渡邊 朋子 (18期生)
- ◆ 田中 久恵 (18期生)